

小山で今年学校田んぼをはじめた大椎小学校の5年生が10月12日に稲刈りをしました。

谷津田の米作り

蛭田 敦子（保護者・千葉市緑区在住）

初夏に始まった米作りも、先日子供たちの歓声とともに稲刈りを終えました。カマキリの卵に、色づき始めたアケビの実。谷津田はすっかり秋の様相です。

田起こしにはじまり、耕した田んぼに水をひいたり、田植えの時は雨で日程が延びたり、夏はあまりの暑さに草取りに行くのを躊躇したり。9月にはカメムシの大量発生のため、皆で一斉に捕獲を行うなど、改めて米作りは自然相手の作業なんだと実感しました。こうして振り返ってみると大変なことばかりのようにも思いますが、一つ一つをとても初めての事ばかりで楽しかったです。また、自然観察も生き物や谷津田の環境に詳しいY P Pの方々いろいろと教えていただくことができとてもよかったです。息子と谷津田の話題で楽しんでいます。子供たちのお手伝いといいつつ、実は自分が楽しんでいるような...

稲刈りが終わっても、まだまだ作業はあるようなので楽しみながら、しっかりお手伝いをしたいと思います。来年も大椎小の子供たちが、谷津田の豊かな自然に触れ、米作りを楽しく学べることを願います。

稲刈りと生き物観察を体験して

六川 真琴（保護者・千葉市緑区在住）

「え！切れない。なんで？」そんな声が多く聞かれる中、稲刈りがスタートしました。カマを持つのも初めての子供たち。何度も試行錯誤しながらも徐々にコツをつかみ、刈り取れるようになってホッとしたのもつかの間。今度は藁でうまく結わえず苦労することに...

それでもだんだんと上手になり、笑顔も増え、「もっとやりたい」とか「おいしいかな」という声も聞こえてきました。

難しいけど、大変だけど、楽しい、嬉しい！そんな気持ちかわる体験でした。何を隠そう、私もカマを持つ経験はあまりなく、子供たちが来る前に何度か練習させていただいたので気持ちはよくわかります。（笑）

家に帰ってきた娘からは「蜘蛛は何で下を向いているでしょう？」との質問、正解の出ない兄弟に「すぐに逃げられるようにだよ」と嬉しそうに話していました。娘は生き物観察が印象的だったようです。

学校からすぐの場所に豊かな自然のあるこの地域、これからもその環境を大事にすること・作ることを大変さ、楽しさを学ぶことのできる活動をこれからも毎年続けて欲しいなあと思いました。

私もとても楽しかったです。ありがとうございました！



大椎小 5年生 米作り体験学習 2007(後編)

木山 裕子（保護者・千葉市緑区在住）

7月1日 水入れ 先日植えた苗の様子を見に田んぼへ行ってみました。周りの稲はもう30センチほど育っていて中干し(田から水を抜いて乾燥させる)をしていました。遅れて植えた私たちの苗はまだ小さくて細いですがしっかり根を張っていました。水も程よく入り安心しました。ちょうど様子を見に来てくださった地元の方とお会いしました。今朝は水がなかったので調節してくださったようでした。ありがたいですね。出来たばかりの大椎小の田んぼもたくさんの人に見守られて、稲が育っています。今年の夏は雨が少なく、暑さも厳しいようです。なんとか乗り越えて実りの秋を迎えられますように。

7月15日 台風 大型の台風4号が日本を直撃、田んぼの様子が気になり天気回復を待って行って見ました。皆が植えた苗はまだ小さいながらもしっかりと立っていてほっとしました。地元の方がこまめにお水を調整してくださっているお蔭で、大量の雨にもかかわらず田んぼは無事でした。台風一過の空にトンボがたくさん飛んでいました。大量に降った雨の為、水路にはゴウゴウと音をたてて水が流れています。米作りは天気や水、自然とのかかわりが深い事を感じます。

8月23日 梅雨明けはいつもより遅かった夏休みですが、明けてからは連日35度を超える猛暑です。この暑さで稲は枯れてしまうのではと心配しましたが、自然の冷たい湧水に助けられて稲はぐんぐん伸びています。暑さに負けずに「ガンバッテ」と叫びたくります。

9月9日 暑かった夏休みも終わり、新学期が始まりました。大椎小の田んぼは大型の台風にも耐えたいい稲が実っていました。無農薬の田は稲ができて始めると害虫カメムシが目につくようになり、ボランティアのみなさんの手作業で退治。集めたカメムシは二千匹くらいありました。これらは可哀そうですが土に埋めてしまうそうです。みんなの手で育てた苗ももう少しです。無事に実りの秋を迎えられそうで、ひと安心。稲刈りが楽しみです。

10月7日 お彼岸も過ぎ、朝晩の風に秋の訪れを感じるようになりました。大椎小の田んぼもいよいよ実りの秋を迎えました。数か月前には荒地だったところに農薬も、機械も使わず、みんなの力を合わせてつくった田んぼに初めての稲が実ったのです。感激です。肥料も使っていないので粒が小さいですが夏の猛暑、台風、カメムシの大群にも耐えた立派な稲穂の姿です。

10月12日 秋休みも終わり、ついに稲刈りを迎えました。Y P Pの皆さんのご協力により鎌の使い方や稲の刈り方などのアドバイスを聞いてから刈っていきました。刈り取った稲は観察した後3株ずつ濡れた藁で束ねました。なかなか上手いかず、お手伝いのお母さん達に助けられる子もいました。順番を待つチームは自然観察をしてY P Pの方からいろいろな知識を教えていただきました。持ちきれない程の稲を担いで皆大事そうに学校までの山道を登りました。そしてプールサイドのフェンスにかけて干します。米作りは大変な仕事だと実感した事でしょう。



里山たんけんレポート

第 93 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2007 年 10 月 7 日(日) 晴れ

谷津田は秋の水田雑草、湿地性の草花でさながらお花畑でした。ミゾソバの大群落は特別に見事でした。モンシロチョウ、モンキチョウ、ヒメアカタテハ、キタテハ、ウラナミシジミ、イチモンジセセリなどのチョウがたくさん訪れていました。畦のハッカの香りと味を、小川のショウブの葉の香りを楽しみ、田んぼのヤナギタデの辛味を味わったりしながら稲刈りの終わった谷津を歩きました。一步、歩くたびにコバネイナゴなどのバッタの仲間が周辺に飛び出し、中にはクモの網にかかるものもあり気の毒な思いと同時に自然の中で生き残ることの厳しさも実感しました。コブナグサの群落は紫褐色に紅葉して風にそよぎ、オギの穂は光に輝き大きく揺れて谷津田の秋が深まってきたことを知らせていました。斜面林ではしばし栗拾いを楽しみました。その栗の木にはミツバアケビがこれも実をたくさんつけて口を開いていました。手を伸ばしても届かず鳥に全部を譲ることにしました。モズの高鳴きが響いていました。セグロセキレイがジジッと鳴きながら飛んでいました。ヒヨドリ、メジロ、ウグイス、コゲラ、の声も聞こえていました。昼食時にはキジが鳴きながら飛ぶ姿も見られました。谷津田の秋を堪能した一日でした。(参加者 大人 4 名、小学生 1 名; 報告: 網代春男)

第 77 回 下大和田 YPP 「古代米の稲刈り」

2007 年 10 月 27 日(土) 雨 / 28 日 晴れ

26日は雨模様、おまけに台風20号の急接近が報じられ、翌日の稲刈りが心配でした。当日は朝からかなりの雨脚で、今日の稲刈りは無理だろうと思いながら、とにかく様子を見るだけと思い下大和田へ出かけました。カップで身を固め田んぼの様子を見て廻ると、中川の水位は高くなり、田んぼへ逆流状態、畦を越えて田んぼへ水が流れ込んできました。しばらくすると、雨にもかかわらず田中先生、平沼さん、金谷さんが来られ、とにかく黒米だけでも刈ろうと四人で水かさの増した田んぼへ！長靴の中に水が入り、カップを通して雨水が着衣を濡らし、ジャブジャブと水の中を歩き廻りながらの稲刈りとなりました。



* ああ無情 雨を恨むか 稲刈り日 *

午前中で何とか刈り終え、オダ掛けも終わりこれ以上の作業は無理と判断し、4人揃ってラーメン屋へ直行、熱々のラーメンをすすって冷えた身体を温めた次第です。* 秋雨に 冷えし身体を ラーメンで *

夕方台風20号が房総沖に接近し、風雨が強くなりオダ掛けした稲が(大塚さんの田は全て26日までに稲刈り終了)心配でした。幸いにも台風は疾走し、翌28日の朝は晴れわり急ぎ下大和田へ駆けつけました。高速道を抜けると杉の枯れ葉が大量に散乱しており、強風が暴れまわったことが心配で、直ぐにオダ(大塚さんの田んぼ)を見に行きました。心配が的中！残念ながら4箇所のおダが倒壊し稲束が水の溜まった田に落ちており、修復に2時間程掛かりました。* 秋台風 オダを倒して 去って行き * 次は稲刈りと思うも、まだ田の水位が高く、畦を切って排水しながら田の中へ足を踏み入れると長靴が沈みそうで、場所を選びつつ稲を刈らねばなりません。しばらくすると、金谷さんが元気な姿で現れ赤米を刈り、次に網代さんも来られ3人で古代米を刈りました。一息を入れようと思いつつ時間を確かめると早や1時過ぎ、遅い昼ごはんを食べて一休み！休みも程々に再び田の中へ！3人黙々とぬかる田んぼに足をとられながらも、刈っては結束・ぬかる田を横切り運び出し、オダ掛けと一人何役もこなしつつ足が棒になるようでした。最後の稲株を刈り終わると5時の時報が聞こえてきました。やっと終わったと疲れもあるが満足感で3人とも一杯でした。* 稲刈りも これで終わり鎌ふるう * ミドリ米の出来具合は良いようで、餅つきで美味しい餅が食べられるだろうと楽しみが一つ増えました。二週間後には、これで予定通り脱穀が出来る！* 満足と 稲刈り終わる 笑顔かな *

地元の人がこんな「田んぼはやっておれないよ、米は買ったほうが安い」の声に何か引っかかるものを感じながらも、谷津を守る・収穫の喜び・汗する快感・自然と共生・・・と自分では納得しつつ、田起こしに始まり稲刈りで終わった米作り、今年も充実感で一杯になりました。

(参加者 27日 大人4名、28日 大人3名; 報告: 石橋紘吉)

「成虫で越冬するチョウ -キタテハ、アカタテハ、ヒメアカタテハ-」

今、谷津田はセイタカアワダチソウとオギに彩られています。開花植物は少なくなりましたが、ミゾソバ、タウコギなども咲いています。これらの花に、ひときわ鮮やかなキタテハ、アカタテハ、ヒメアカタテハが訪れ、蜜を吸っています。下大和田の谷津では金谷さんの田んぼに向かう左側の放置田にはカナムグラが群落を作っています。この群落がキタテハの揺りかごになっています。キタテハの幼虫はこのカナムグラを食べて育ちます。食べる餌がたくさんあるためかキタテハがいちばん多く見られるようです。

この3種のチョウの幼虫は食草の葉を綴りあわせて巣を作り、その中で暮らします。アカタテハはカラムシ（イラクサ科）が食草です。農道の脇などで群落が見られますが下大和田の田んぼ周辺では群落は見当たりません。高速道路脇の土手などに群落があるのかも知れません。しばしば谷津に飛んできます。ヒメアカタテハの食草はハハコグサ、ヨモギなど（キク科）で谷津にはたくさん散在しています。カナムグラ、カラムシ、ヨモギなどの葉が綴られていたらそっと覗いて見ましょう。棘状突起のある幼虫がいるでしょう。アカタテハは綴りあわせた巣の中で蛹になりますので蛹が見られるかも知れません。



アカタテハ 巣をあけて覗いてみました

秋に羽化して成虫になって越冬したものが、春に繁殖活動をして卵を産みます。その卵から幼虫、蛹となって5・6月頃に羽化（第1化という）するものは親と形態が異なる種があります。この第1化を夏型と言い、発生は繰り返されますが秋に羽化して成虫で越冬するものを秋型と言っています。この夏型と秋型では色彩、形などがキタテハで蛹と幼虫は顕著に異なります。夏型は黄色味が強く黒斑が大きめ、秋型ではオレンジ味が強く黒斑が小さくなります。また翅の外縁の凹凸（ギザギザ）が大きくなります。一般的には秋型が色彩が鮮やかできれいに見えます。

アカタテハ、ヒメアカタテハは夏型、秋型で形態の相違がありません。

寒さをじっと堪えて冬を過ごしているところを私は見たことがありません。常緑樹の葉陰とか枯葉の中、土の中など種によっていろいろあるようです。



ヒメアカタテハ



キタテハ春型と秋型外縁がギザギザ

*ここには生態の似ている3種を紹介しましたが成虫で越冬しているチョウはたくさんいます。ルリタテハ、キチョウ、ムラサキシジミ、ウラギンシジミ、テングチョウなどが成虫で越冬しています。

*チョウは卵で、幼虫で、蛹で、成虫で越冬するもの、決まった越冬態がないものなど様々です。幼虫、蛹で越冬するものの第1化を春型、第2化以降発生するものを夏型と言っています。こちら、春型、夏型では色彩、紋様、大きさなど形態に違いがあるのが一般的です。

*チョウはそれぞれの種にとって低温、乾燥、高温などの悪い環境条件にあうと適応行動として休眠します。これは主としてホルモンの作用によって体内の物質交換が低下し、不活動な状態になります。日本での最も悪い環境条件は冬季でチョウは非活動的な状態で冬を過ごします。これが越冬（休眠）です。越冬するものは体内に生理的な変化が起こり冬眠に適応するように質的に変化してしまうので、いったん休眠にはいると一定の条件がないと冬眠から覚めないということです。

*アカタテハの食草カラムシにはフラスズメと言うガの幼虫がしばしば大発生していることがありあす。こちらは巣を作りません。敵？を察すると身体を激しく揺すって威嚇？します。草の茎で軽く突っついて試してみてください。面白いですよ。

こども環境講座開催

ちば環境情報センター主催のこども環境講座が今年も昭和の森を基点に10月6～7日に開催されました。地元あすみが丘をはじめ各地から集まった子どもたちは初日小山を散策して生きものを捕まえたり、アケビを味わったりして谷津の自然を満喫しました。



谷津田・季節のたより

下大和田

10月21日 ツクツクボウシにアブラゼミまで鳴く。暖かな秋(高山)。

小山町

10月13日 ノシメトンボが産卵。顔まで真っ赤なナツアカネを見る。林縁の灌木にゴミグモの幼体が網をかけている(高山)

10月20日 モズがヒヨドリなどの鳴きまね(高山)

10月22日 大椎小学校田んぼにアカガエルが1匹。ここで冬眠するかな?(齊藤)。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、YPPのイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうしで、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター(TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

第78回 下大和田 YPP「収穫祭」

いよいよ皆さんお待ちかねの収穫祭です。今年の米づくりをふりかえりながら、新米を試食したり、たき火をしたり、ゲームなどで楽しく過ごしましょう。

日時: 2007年11月23日(金・祝) 10:00～14:00 *小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。)

集合: 中野操車場バス停に10:00(JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:53、9:08、9:23など> 料金は520円)

持ち物: 長靴、帽子、軍手、弁当、飲み物、汁物を入れるお椀、敷物など。

参加費: 500円(食材費を含む特別料金となります)

主催: ちば環境情報センター 共催: ちば・谷津田フォーラム

第95回 下大和田 12月の谷津田観察会とごみ拾い

谷津の木々は紅葉の季節で色づいています。冬鳥もやってきました。鳥の姿を求めながら初冬の谷津を散策します。

日時: 2007年12月2日(日) 10:00～14:00 *小雨決行

場所: 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)

集合: 中野操車場バス停に10:00(同上)

持ち物: 筆記用具、弁当、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋など

参加費: 300円(資料代など)

主催: ちば・谷津田フォーラム 共催: ちば環境情報センター

11月25日(日)土気のアすみが丘プラザまつりに出展して、下大和田や小山の活動を紹介します。どんぐりトトロづくりやわら細工のコーナーも設けます。ぜひお出かけ下さい。

編集後記 NHKの番組で木更津にある保育園が近隣の里山を使った保育をしている様子が紹介されました。「けがをしたり泥だらけになったり、時には友達と喧嘩をしながら遊びに熱中してこそ子供は健全に育つ」という園長先生の考えのもと、年間60日を里山で過ごし、たくましく成長し、小さいながら友達とうまく暮らしていく社会性を身につけていく様子は驚きです。私たちのYPPの活動と共通するところもあり、また学ぶところもたくさんある番組に感激しました。(高山邦明)